市村・新井 (2023). 容装心理学研究, 2(1), 23-31.

家族内のリンクコーデ現象に関する心理学的検討[1]
ー乳幼児を育てている母親と女子大学生の経験による探索的検討ー

市村美帆 和洋女子大学・新井洋輔 神戸医療未来大学

Psychological features of "family members' link coordination"
-Exploratory study of infants' and toddlers' mothers and female university students-

Miho ICHIMURA (Wayo Women's University), Yosuke ARAI (Kobe University of Future Health Sciences),

This study explored the "family members' link coordination" phenomenon from a psychological perspective, defined as enjoying matching fashions and wearing matching clothes by parents and children or brothers and sisters. In Study 1, we conducted an interview survey with mothers (n=4) raising infants and toddlers. In Study 2, we conducted a questionnaire survey with female university students (n=89) on their experience of conducting or observing "link coordination among family members." Based on the results, we have discussed how to enjoy the phenomenon and the phenomenon's effects on surrounding people.

Keywords: link-code, clothing behavior, family

家族や恋人や友人など，親密な関係にある他者とおそろいの衣服，すなわち同じ洋服や同じ装飾を身につけるファッションの楽しみ方がある。時代によって「おそろい」「ペアルック」「双子コーデ」「リンクコーデ」「親子(母娘)リンクコーデ」「家族リンクコーデ」など，範囲と呼び方がさまざまに変化してきたこの現象は，乳幼児の衣生活として(布施谷, 1991), 親子の関係性の表れとして(布施谷・松本，2004 ; 増田・淺井，2016)，あるいは青年期中心の流行現象として(市村・新井・今野，2018 など)，様々な観点から検討されている。

布施谷(1991)は，乳幼児の衣生活の構造を検討するために，乳幼児の保育の主たる分担者とされる母親を対象として，調査を実施している。家庭状況や衣生活について尋ねる 42 の質問項目を因子分析した結果,「あなたとお子様，または父親とお子様がペアの服を着ることがありますか」という項目は，母子の服購入の際にブランド品を購入するといったブランド購入の項目や，流行の色や形を考慮するといった流行に関する項目とともに，おしゃれ志向の因子として抽出された。以上より，親子間や家族内のリンクコーデは，ブランド品を購入したり，流行を考慮したりするといったおしゃれの楽しみ方の１つとして行われている可能性がある。また同因子分析では，子どもの意見や希望に対する母親の衣服選択のあり方も一因子として抽出された。従来の研究において乳幼児衣料の大部分は母親に負うているものとして扱われてきたが，子供が自己主張をするようになった時に母親がどのように対処するかという問題も母子の問題として重要であると布施谷(1991)は指摘している。この指摘を踏まえれば，家族内や親子間のリンクコーデは，少なくとも子供が自己主張を始めるまでは，母親の主導で行われるものと捉えることができよう。

また，親子間のファッションの影響やその関わり方についても検討が行われている。布施谷・松本(2004)は，母と娘(女子大学生)の被服関心の違いが互いの被服行動にどのように関わるのかについて検討している。その結果，母親も女子大学生も共に，生活の中で被服の関心が高く，母親のファッションに対して，おしゃれであると評価する女子大学生は，母親と一緒に買い物に行く傾向があった。また，母親と女子大学生は共に，「品数やバリエーションが増えるから」や「趣味・センスが合うから」といっ

1 Corresponding author: Miho Ichimura (E-mail: m-ichimura [at] wayo.ac.jp)

た理由からバックや化粧品，スカーフ・マフラーを貸し借りしていることなどを明らかになった。一方，増田・淺井(2016)は，ファッションを含めた母親とのコミュニケーションについて，女子大学生(現在の母親との関係)と，母親(自身が独身の約 20 歳前後の娘時代の母親との関係)に調査をしている。その結果，女子大学生および，その母親が娘時代に，「母親をおしゃれだと思う」や「母親のファッションセンスが好き」の得点が高いほど，「母親と衣服の貸し借りをする」ことや，「親子で服を買いに出かける」ことの得点が高いことが示されている。以上を踏まえると，親子(母娘)間で，母親のファッションを肯定的に評価することは，母親との衣服の貸し借りといった物品の共有や，母親と一緒に買い物に出かけるといった場面や時間の共有などにつながると考えられる。これらは，布施谷(1991)で検討されているペアの服を着ることとはまた別の，親子間でのファッションの共有の形と考えられる。

以上のように，家族内や親子間のリンクコーデについては，いくつかの視点で取り上げられており，家族内でおそろいの衣服を身につけるというおしゃれの楽しみ方があり，母親の主導で行われる可能性や，母親のファッションへの肯定的な評価が，母親とのファッションに関する物品の共有や，場面や時間の共有につながることが明らかになっている。しかし，家族内や親子間のリンクコーデが実際にどのような場面や状況で行われているのか，そしてその現象をどのように楽しみ，捉えているのかといったことは不明である。

一方，市村他(2018)は，青年期を中心とした「双子コーデ」現象の流行の実態を検討している。市村他(2018)はまず，Twitter に「双子コーデ」というキーワードとともに投稿された画像を整理した結果から，双子コーデを「同性の友人関係にある２人が同じ洋服や装飾アイテム，もしくは同じ洋服の色や柄違いを用いて，同一であるように全身をコーディネートすること」と整理している。そのうえで，大学生を対象とした２つの調査の結果から，大学生はテレビやインターネットや雑誌から「双子コーデ」の情報を得ていることや，実際に双子コーデをしている他者を見たり自身が体験したりしているという流行の実態を確認し，経験の有無と友人関係スタイルとの関連などを検討している (市村他，2018)。

さらに，大学生の「双子コーデ」の捉え方には，経験の有無によって違いがあり，双子コーデの経験者は「かわいい」「ほほえましい」など肯定的に捉えているが，双子コーデの未経験者には，肯定的に捉える者とともに「何も感じない」「理解できない」と不可解で受け入れがたいと感じている者もいた(市村・新井, 2020)。また，双子コーデをする理由の捉え方にも，経験の有無による違いが見られ，双子コーデの経験者は，「友だちとの価値観が似ているから」「非日常を味わいたいから」「テンションがあがるから」「イベントに参加するため」「楽しいから」といったことを理由として挙げたが，双子コーデの未経験者は，「友だちとの仲の良さを目に見える形にしたいから」「友だちと共通点が欲しいから」「友だちとの関係の良さを確認したいから」「友だちとの関係の証が欲しいから」，「仲間意識をもちたいから」といったことを理由として考えていた(市村・新井，2020)。この結果を踏まえると，家族内や親子間のリンクコーデにも，経験の有無によって捉え方の違いがある可能性がある。

本研究では，家族内や親子間で，おそろいの衣服，すなわち同じ洋服や同じ装飾を身につけるファッションを「家族内のリンクコーデ」と捉え，心理学的視点から，探索的に検討することを目的とする。研究１では，「家族内のリンクコーデ」が身近にある，すなわち経験したり目にしたりしていると想定される乳幼児を育てる母親に面接調査を行う。乳幼児を育てる母親が家族の衣服(洋服やファッション)にどのように関与しているのか，「家族内のリンクコーデ」をどのように捉え，実際に家族内で取り入れているのかどうかなどについて尋ねる。研究２では，女子大学生を対象に，「家族内のリンクコーデ」の２つの経験について，質問紙で調査する。第１は，女子大学生自身の幼少期などの「家族内のリンクコーデ」経験について，実際に経験したことがあるかどうかや，経験した場合はその際に感じた感情などについて尋ねる。第２は，女子大学生が「家族内のリンクコーデ」をしている他者をみたことがあるか，どのように評価しているのか，将来自身も取り入れてみたいかどうかなどについて尋ねる。以上２つの探索的

な検討の結果から,「家族内のリンクコーデ」の現象について，整理する。

研究１

「家族内のリンクコーデ」の現象が身近にある，すなわち経験したり目にしたりしていると想定される乳幼児を育てる母親に面接調査を行う。乳幼児を育てる母親が，家族の衣服(洋服やファッション)にどのように関与しているのか,「家族内のリンクコーデ」をどのように捉え,実際に家族内で取り入れているのかどうかなどについて尋ねる。

方法

2020年12月に,縁故法にてリクルートした,乳幼児および小学生を育てる母親４名(30~40代,2~3 人の子どもがいる)を対象に，Zoom 等を用いたオンライン形式にて，半構造化面接を実施した。面接時間は，各 30～40 分程度であった。

面接内容　はじめに，家族の洋服購入に関する質問として,「洋服はどのくらいの頻度で購入しますか」,「家族の洋服は誰が選んで購入していますか」,「洋服を購入する際にこだわっていることや，参考にしているものはありますか」について尋ねた。次いで，本研究では，家族内や親子間で，おそろいの衣服，すなわち同じ洋服や同じ装飾を身につけるファッションを「家族内のリンクコーデ」と捉えているものの，現象を説明する様々な表現があることを考慮し,「家族内でおそろいのファッションをするという現象」と表現し,「家族内でおそろいのファッションをするという現象を知っていますか」,「この現象をどのように呼んでいますか」,「この現象の情報に触れたことがありますか」,「この現象を実際に見たことがありますか」,「この現象を体験したことがありますか」について尋ねた。なお，現象の情報に触れたり，実際に見たり，体験したことについては，いつ頃のどのようなものであったか，その際に感じたことなどのエピソードなども尋ねた。

なお，本調査の実施にあたっては，第１著者の所属する大学の倫理に関する委員会にて承認を得ている(承認番号 1947)。

結果

結果については，面接内容の各質問項目への回答を以下に記述する。

はじめに，家族の洋服購入に関する質問の「洋服はどのくらいの頻度で購入しますか」に対して,「月に１~２回くらい」や「安くて似合いそうな物を見掛けたら買う」,「頻度はわからないが、人よりは買っている方だと思う」という回答がみられた(各回答 *n*=1)。また,「家族の洋服は誰が選んで購入していますか」に対して,「私(母親)が自分と子どもの服を選ぶ」,「私(母親)が子どもの服を選ぶが、主人(父親)の洋服は選ばない」,「私(母親)が子どもの服を勝手に買ってくる」や「私(母親)が第１子の服を選ぶが、第２子は自分で選ぶ、第３子は半々くらい（母親が選ぶときと子どもが選ぶときがある）、主人(父親)の服も私(母親)が勝手に買ったりする」という回答が得られ(各回答 *n*=1), 主に母親が子どもの服を選んでいるが(*n*=4)、父親が子どもの服を選ぶという回答はみられなかった。「洋服を購入する際にこだわっていることや，参考にしているものはありますか」に対して,「高い物は買わない」や「そこそこ安くて似合いそうな物」や,「洗濯のしやすさ」,「着心地。デザイン。かわいいかどうか」といったこだわりに関する回答や,「子育てのブログ」,「雑誌」などの回答があった(各回答 *n*=1)。

次いで,「家族内でおそろいのファッションをするという現象を知っていますか」に対して,対象者全員(*n*=4)が「現象を知っている」と回答し,「この現象をどのように呼んでいますか」に対して，対象者全員(*n*=4)が「おそろい」と表現し、「双子コーデ(*n*=2)」および「リンクファッション(*n*=1)」,「ペアルック(*n*=1)」と呼んでいると回答した。また,「この現象を実際に見たことがありますか」に対して,「街中(*n*=1)」や「親戚との集まり(*n*=1)」,「テーマパーク(*n*=3)」や「キャンプ場やイベント会場(*n*=1)」で現象を見たことがあるという回答が得られた。現象を見て感じたことについては,「目立つ」や「目につく」という回答に加えて,「キャンプとか開放的になっていると，ありなのかなと思う」や「普段じゃない，日常じゃないから。人は人みたいな感じ」という回答があった(各回答 *n*=1)。

また,「この現象を体験したことがありますか」に対しては,「子どもたちは同じ服をもっているし、私(母親)も全くおそろいの物ではないが，色合いが似ている服を着る」や「子どもたちはデザイン違いの同じ服を持っている」,「それっぽくおそろいにしたり、母と娘だけ一緒に

する」などの回答があった(各回答 *n*=1)。加えて，「お花見で写真を撮るために」や「記念写真を撮るときにそろえた」など，イベントの際に体験したという回答もあった(各回答 *n*=1)。さらに，自身(母親)が幼少期に，兄弟や自身の母親と同じ服を着たという記憶や，写真などがあるという回答(*n*=3)もあった。

以上より，家族内で特に子どもの衣服(洋服やファッション)の選択は，本調査では対象者全員が母親によって選択されており，服の購入には，値段や着心地およびデザイン、選択のしやすさなどが重視されるという回答が得られた。また，本調査の対象者全員(母親)は，家族内でおそろいにするというファッションおよびその現象を様々な形で知っていた。実際に，家族内でおそろいにしている他の家族を見かけると，目立つように感じるが，特定の場であれば，特異なことではないという回答が得られた。また，自身も，家族内や自身の子どもたち(兄弟)の間で，同じ服を着せたり，色合いが似ている服やおそろいのように見えるようなファッションを取り入れ，様々な形で楽しんで行っていること，自身(母親)も幼少期に経験していた。

研究２

女子大学生を対象に，以下２つの経験について，質問紙調査を行う。第１は，女子大学生自身の幼少期などの「家族内のリンクコーデ」経験について，実際に経験したことがあるかどうかや，経験した場合はその際に感じた感情などについて尋ねる。第２は，女子大学生が「家族内のリンクコーデ」をしている他者をみたことがあるか，どのように評価しているのか，将来自身も取り入れてみたいかどうかなどについて尋ねる。

方法

2021 年 6～7 月に，関東圏の女子大学に通う女子大学生 89 名(年齢 *M*=19.7，*SD*＝0.7)を対象に，google フォームを用いて，質問紙調査を実施した [2]。心理学関連の授業で資料等の配信に用いているクラウド型の教育支援サービスにて，授業の受講者に対し，調査対象者募集に関する情報を配信した。本調査への参加は授業の内容や，成績評価には一切関係がないことを明記し，興味がある場合に参加するように説明した。

調査項目　研究 1 と同様に，表現を特定せず，「両親や兄弟（姉妹）とおそろいの洋服を着た経験」について，経験の有無，経験した時期(Figure 1 参照)およびその相手(Figure 2 参照)を多重回答方式で尋ねた。加えて，経験時の状況や感情について，泉・渡辺(1994)，宇野他(1994)を参考に 16 項目を作成し，多重回答方式で尋ねた(Figure 3 参照)。また，「あなたがおそろいの洋服を着たことは，どのような思い出ですか」と尋ね，「悪い思い出」から「良い思い出」の５件法で回答を求めた。得点が低いほど，「悪い思い出」となり，得点が高いほど，「良い思い出」となるように得点化した。

次いで，街中などで，「家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達」を見たことがあるかどうかについて，経験の有無，見かけた関係性(Figure 4 参照)，見かけた場所(Figure 5 参照)について多重回答方式で尋ねた。加えて，見かけた際の評価について，市村・新井(2020)が作成した 15 項目(Figure 6 参照)を多重回答方式で尋ねた。また，「将来，自分のパートナー(恋人など)と，おそろいの洋服を着たいと思いますか」，「将来，自分が親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思いますか」と尋ね，「全くそう思わない」から「とてもそう思う」の５件法で回答を求めた。両項目とも，得点が低いほど「全くそう思わない」，得点が高いほど，「とてもそう思う」となるように得点化した。

なお，本調査の実施にあたっては，第１著者の所属する大学の倫理に関する委員会にて承認を得ている(承認番号 2106)。

結果

自身の家族内のリンクコーデの経験　両親や兄弟(姉妹)とおそろいの洋服を着た経験については，全体の 62.9%(*n*=56)が，経験があると回答した。経験者(*n*=56)を対象に，その時期およびその相手についての結果を Figure 1，Figure 2 に示す。小学校入学前および小学生の時期の経験が 70%以上であり，母親(44.6%)や妹(35.7%)といった同性の家族とのおそろいの洋服を着た経験がある者の割合が高いことが明らかになった。

経験時の状況や感情について，各項目の全体の選択率を Figure 3 に示す。「嬉しい(60.7%)」や「楽しい(51.8%)」，「うきうきした(33.9%)」

Figure 1　両親や兄弟(姉妹)とのおそろいの洋服を着た時期の選択率(%)

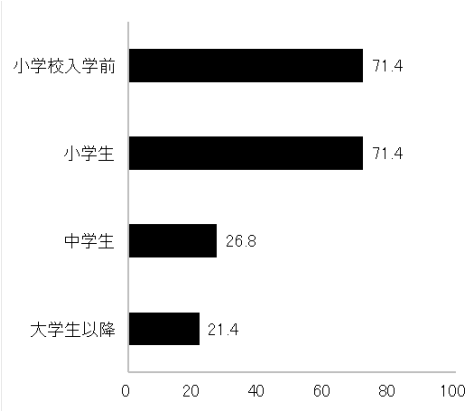


Figure 2　おそろいの洋服を着た相手の選択率(%)

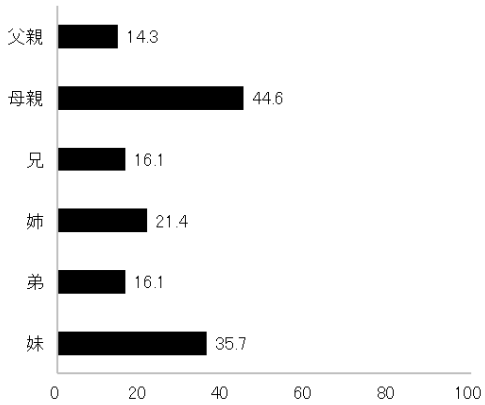


Figure 3　経験時の状況や感情項目の全体の選択率(%)

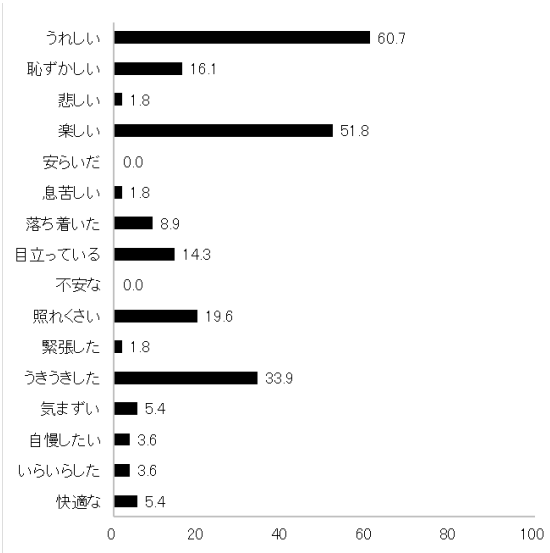


Table 1　経験時の状況や感情項目の選択別の思い出の捉え方の得点および *t* 検定の結果

	選択			非選択			*t*
	n	*M*	*SD*	*n*	*M*	*SD*	
うれしい	34	4.7	0.5	22	3.6	1.1	4.2 **
恥ずかしい	9	3.8	1.5	47	4.3	0.8	1.1
楽しい	29	4.6	0.6	27	3.8	1.1	3.4 **
落ち着いた	5	3.8	0.8	51	4.3	1.0	1.1
目立っている	8	4.6	0.7	48	4.2	1.0	1.3
照れくさい	11	4.2	0.9	45	4.2	1.0	0.2
うきうきした	19	4.5	0.7	37	4.1	1.0	1.7
気まずい	3	2.7	0.6	53	4.3	0.9	3.2 **
自慢したい	2	4.5	0.7	54	4.2	1.0	0.4
いらいらした	2	2.0	1.4	54	4.3	0.8	3.8 **
快適な	3	4.0	1.0	53	4.3	1.0	0.4

**$p<.01$

※複数の対象者に選択された項目のみ記載した

の選択率が高かった。また,「照れくさい(19.6%)」や「恥ずかしい(16.1%)」,「目立っている(14.3%)」も選択された。

また，経験時の状況や感情の各項目の選択別に,「あなたがおそろいの洋服を着たことは，どのような思い出ですか」の得点(全体 M=4.2, SD=0.9)比較を行うために，t 検定を行った(Table1 参照)。その結果,「嬉しい」と「楽しい」を選択した者は，選択しなかった者よりも，おそろいの洋服を着たことを良い思い出であると回答しており,「気まずい」と「いらいらした」を選択した者は，選択しなかった者よりも，おそろいの洋服を着たことを悪い思い出であると回答していた。

家族内のリンクコーデをしている他者をみた経験　家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達を見た経験については，全体の87.6%(n=78)が，経験があると回答した。経験者(n=78)を対象に，見かけた関係性と見かけた場所についての結果を Figure 4，Figure 5 に示す。「おそらく兄弟(姉妹)のおそろい(88.5%)」,「おそらく親子のおそろい(53.8%)」を,「テーマパーク(85.9%)」や「ショッピングモール・デパート(71.8%)」といった場所で見かけていることが明らかになった。

家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達を見た際の評価について，各項目の全体の選択率を Figure6 に示す。「かわいい(89.7%)」

Figure4　見かけた関係性の選択率(%)

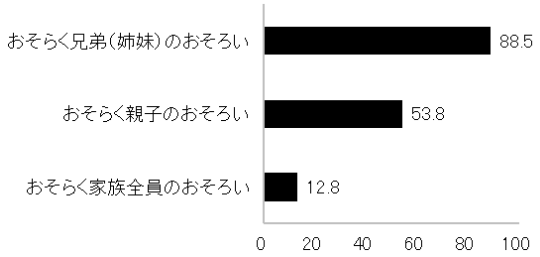


Figure 5　見かけた場所の選択率(%)

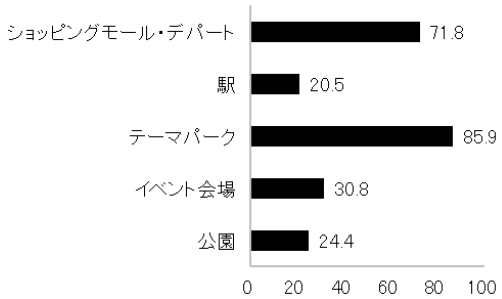
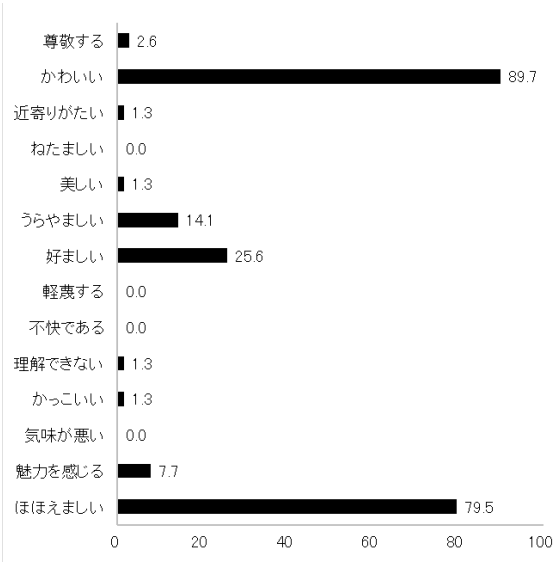


Figure 6　見かけた際の評価項目の全体の選択率(%)



や「ほほえましい(79.5%)」の選択率が高く，「好ましい(25.6%)」や「うらやましい(14.1%)」も選択された。

また，家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達を見た際の評価の各項目の選択別に，「将来，自分のパートナー(恋人など)と，おそろいの洋服を着たいと思いますか」の得点

Table 2　見かけた際の評価項目の選択別のパートナーとの経験願望得点および *t* 検定の結果

	選択			非選択			*t*
	n	*M*	*SD*	*n*	*M*	*SD*	
尊敬する	2	2.0	1.4	75	2.9	1.3	0.9
かわいい	69	3.0	1.3	8	1.9	0.8	2.3 *
うらやましい	11	3.3	1.3	66	2.8	1.3	1.1
好ましい	20	3.4	1.3	57	2.7	1.3	2.2 *
魅力を感じる	6	4.0	0.9	71	2.8	1.3	2.3 *
ほほえましい	61	2.9	1.3	16	2.8	1.5	0.4

*p<.05

※家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達を見た経験者(n=78)を分析対象とした。複数の対象者に選択された項目のみ記載した。

Table 3　見かけた際の評価項目の選択別の子どもとの経験願望得点および *t* 検定の結果

	選択			非選択			*t*
	n	*M*	*SD*	*n*	*M*	*SD*	
尊敬する	2	2.5	2.1	76	3.1	1.4	0.6
かわいい	70	3.2	1.4	8	1.9	0.6	4.7 **
うらやましい	11	4.1	0.8	67	2.9	1.4	3.9 **
好ましい	20	3.5	1.4	58	2.9	1.4	1.6
魅力を感じる	6	3.7	1.2	72	3.0	1.4	1.1
ほほえましい	62	3.1	1.4	16	3.1	1.6	0.0

**p<.01

※家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達を見た経験者(n=78)を分析対象とした。複数の対象者に選択された項目のみ記載した。

(全体 M=3.1，SD=1.3)の比較を行うため，t 検定を行った(Table 2 参照)。その結果，「かわいい」と「好ましい」，「魅力を感じる」を選択した者は，選択しなかった者よりも，将来，自分のパートナー(恋人など)と，おそろいの洋服を着たいと思うと回答していた。

家族や兄弟(姉妹)でおそろいの洋服を着ている人達を見た際の評価の各項目の選択別に，「将来，自分が親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思いますか」の得点(全体 M=2.9，SD=1.4)の比較を行うため，t 検定を行った(Table 3 参照)。その結果，「かわいい」と「うらやましい」を選択した者は，選択しなかった者よりも，将来，自身も親になっ

Table4　各項目間の相関係数の結果

		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
Ⅰ	あなたがおそろいの洋服を着たことは、どのような思い出ですか		.23	.43 **
Ⅱ	将来、自分のパートナー（恋人など）と、おそろいの洋服を着たいと思いますか	(52)		.56 **
Ⅲ	将来、自分が親になったとしたら、自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思いますか	(52)	(77)	

**p<.01

※右上は相関係数，左下は有効標本数を示す。

たとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思うと回答していた。

また，「あなたがおそろいの洋服を着たことは，どのような思い出ですか」，「将来，自分のパートナー(恋人など)と，おそろいの洋服を着たいと思いますか」，「将来，自分が親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思いますか」の 3 項目間のピアソンの相関係数を算出した(Table 4)。その結果，自身がおそろいの洋服を着たことが良い思い出であったかどうかは，将来，自身が自分のパートナー，とおそろいの洋服を着たいかどうかといったこととは関係がなかったが，自分が親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思うこととは関係があった。また，将来，自身が，自分のパートナーとおそろいの洋服を着たいと思う人ほど，自分が親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思うことが明らかになった。

総合考察

本研究の目的は，家族内や親子間で，おそろいの衣服，すなわち同じ洋服や同じ装飾を身につけるファッションを「家族内のリンクコーデ」と捉え，心理学的視点から，探索的に検討することであった。研究１では，「家族内のリンクコーデ」が身近にある，すなわち経験したり目にしたりしていると想定される乳幼児を育てる母親に面接調査を行った。研究２では，女子大学生を対象に，以下２つの経験について質問紙調査を行った。第１は，女子大学生自身の幼少期などの「家族内のリンクコーデ」の経験であった。第２は，女子大学生が「家族内のリンクコーデ」をしている他者を見たことがある経験であった。

「家族内のリンクコーデ」については，研究１において，表現は様々であるものの，対象者全員が現象を知っていた。また，母親は，親戚との集まりや，テーマパークやイベント会場など様々な場所や状況で，実際に「家族内のリンクコーデ」を取り入れている他者を見たことがあり，母親自身も幼少期に経験していた。また，家族内で子どもの衣服(洋服やファッション)に関する選択をすることが多い母親が，イベントなどの際に，家族内や自身の子どもたち(兄弟)の間で，同じ服を着せたり，色合いが似ている服やおそろいのように見えるようなファッションを取り入れていた。研究２では，女子大学生自身が小学校入学前や小学生といった乳幼児期や児童期の際に，主に同性の家族との間で，おそろいの洋服を着たという経験をしていることが明らかになった。また，女子大学生は，おそらく兄弟(姉妹)，親子でおそろいの洋服を着ている人達を，ショッピングモール・デパート，テーマパークで見た経験があった。以上から，「家族内のリンクコーデ」の現象は，現在，乳幼児を育てている母親だけではなく，母親自身が幼少期にも経験していること，現在の女子大学生も，幼少期や児童期に体験したことがあったり，現象を見たことがあり，幅広い世代に周知された現象であると考えられる。また，「家族内のリンクコーデ」は，母親の主導によって，何らかのイベントや外出の際に取り入れられるものと考えられる。

なお，研究２では，女子大学生が家族とおそろいの洋服を着た経験について，その際の感情や，その経験をどのような思い出として捉えているのかといった点についても注目した。女子大学生が家族とおそろいの洋服を着た際には，「嬉しい」や「楽しい」「うきうきした」に加え，「照れくさい」や「恥ずかしい」，「目立っている」と感じていた人もいた。また「嬉しい」や「楽しい」と感じていた者は，その経験を良い思い出と捉えていた。一方で，「気まずい」と「いらいらした」と感じていた者は，その経験を悪い思い出と捉えていた。以上から，「家族内のリンクコーデ」の経験には，ポジティブな感情と共に良い思い出と捉える者がいる一方で，ネガティブな感情と共に悪い思い出と捉える者がいることが明らかになった。布施谷(1991)は，乳幼児衣料の大部分は母親に負うているものとして扱われてきたが，子どもが自己主張をするようになった時に母親がどのように対処する

かという問題も母子の問題として重要であると指摘している。前述したように，女子大学生自身が小学校入学前や小学生といった乳幼児期や児童期の際に，おそろいの洋服を着たという経験をしていることを踏まえると，母親の主導によって「家族内のリンクコーデ」を経験し，ポジティブ感情な感情を感じ，その経験を肯定的に評価する者がいる一方で，衣服に関して自己主張すると共に,「家族内のリンクコーデ」を経験し，ネガティブな感情を感じ，その経験を否定的に評価する者もいると考えられる。

加えて，研究２では，女子大学生に，街中などで, おそろいの洋服を着ている家族や兄弟(姉妹)を見た際の評価についても注目した。その結果，女子大学生は，おそろいの洋服を着ている家族や兄弟(姉妹)を見た際に,「かわいい」や「ほほえましい」と評価していることが明らかになった。「家族内のリンクコーデ」と類似した，友人間の「双子コーデ」現象に対して，大学生が「かわいい」や「ほほえましい」と評価している(市村・新井，2020)ことを踏まえると,「家族内のリンクコーデ」や「双子コーデ」といった「おそろいの衣服を身につけること」は，周囲から，肯定的な評価を受けることと考えられる。

また，女子大学生が，おそろいの洋服を着ている家族や兄弟(姉妹)を見た際に,「かわいい」と「好ましい」,「魅力を感じる」と評価した者は, 将来, 自分のパートナー(恋人など)と，おそろいの洋服を着たいと思うと回答していた。さらに「かわいい」と「うらやましい」と評価した者は，将来，自身も親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思うと回答していた。以上のように,「家族内のリンクコーデ」を見て，肯定的な評価をした者は，将来，自分も，パートナーや子どもと，やってみたいと考えていることが明らかになった。加えて，女子大学生に，自身の幼少期などの「家族内のリンクコーデ」の経験の思い出と, 将来, 自分のパートナーや子どもと，おそろいの洋服を着てみたいと思うかについて，その関連を検討した。その結果，自身がおそろいの洋服を着たことが良い思い出であったかどうかは，将来, 自分のパートナーとおそろいの洋服を着たいかどうかといったこととは関係がなかったが, 自分が親になったとしたら，自分の子どもとおそろいの洋服を着たいと思うこととは関係があった。自身が「家族内のリンクコーデ」を経験したことを良い思い出と捉えることが，将来, 自身の家族内で取り入れてみたいと思うことにつながると考えられる。

本研究の結果を踏まえると,「家族内のリンクコーデ」の現象は，下記の２点から，整理される。第１に,「家族内のリンクコーデ」の楽しみ方である。家族内, 親子間や兄弟(姉妹)間で, おそろいの衣服を身につけることは，現在，母親である世代が取り入れているだけではなく, 母親や女子大学生自身が幼少期などにも経験していることであり，経験の際には全体としてポジティブな感情を感じており，幅広い世代が何らかの形で楽しんできた現象であると整理される。また,「家族内のリンクコーデ」は，イベントや外出の際に取り入れられていた。「双子コーデ」の経験者が，双子コーデをイベントや非日常を楽しむ手段として行っていること(市村・新井，2020)を踏まえると,「家族内のリンクコーデ」も同様に，家族内のイベントや外出をより楽しむために行われていると考えられる。ただし，母親の主導と想定される「家族内のリンクコーデ」の経験を，ポジティブな感情と共に良い思い出と捉える者がいる一方で, ネガティブな感情と共に悪い思い出と捉える者がいることが明らかになった。家族で，イベントや外出をより楽しむために「家族内のリンクコーデ」を行うものの, 家族（主として母親）の主導によって「家族内のリンクコーデ」を行った際に，必ずしも家族全員が「家族内のリンクコーデ」にポジティブな捉え方をするわけではなく、追従した家族がネガティブな捉え方をする可能性もある。

第２に,「家族内のリンクコーデ」が周囲に与える影響である。親子間や兄弟(姉妹)間の「家族内のリンクコーデ」は, 友人間の「双子コーデ」(市村・新井，2020)と同様に，周囲からポジティブな評価を受けており,「おそろいの衣服を身につけること」は，周囲から，ポジティブな評価を受けることであると整理される。また，これらのポジティブな評価は，自身も，将来自分のパートナー(恋人など)や子どもとおそろいの洋服を着たいと考えることと関連する。「双子コーデ」によって友人関係を深めたり，周囲に自身と友人間の仲の良さを呈示していること(市村他，2018)を踏まえると,「おそろいの衣服

を身につけること」によって，将来のパートナーや家族との関係を深めたいと考える可能性もある。

最後に今後の課題について，３点議論する。第１は,「家族内のリンクコーデ」の現象を母親の視点から行う検討である。本研究では，乳幼児を育てている母親を対象に面接調査を行い，質的に「家族内のリンクコーデ」を検討した。本研究では，対象とした母親全員が,「家族内のリンクコーデ」の経験者であったこと，双子コーデの経験有無によって現象の捉え方が異なる可能性がある（市村・新井，2020）ことを踏まえ,「家族内のリンクコーデ」の現象の詳細を検討するために，今後は乳幼児を育てている母親を対象とした量的な検討が必要である。また，市村・新井(2020)が双子コーデをする理由について検討しているように，実際にどのような理由で「家族内のリンクコーデ」を行っているのか，検討する必要がある。第２は,「家族内のリンクコーデ」の現象を家族の視点から行う検討である。母親の主導で「家族内のリンクコーデ」が行われた際に，家族はどのように捉えているのかといった視点も重要な検討点であると考えられる。「家族内のリンクコーデ」がどのように家族内で楽しまれているのかなど詳細を検討する必要もある。第３は，サンプル数の問題である。本研究では，女子大学生を対象に,「家族内のリンクコーデ」の経験に注目したが，感情項目の選択別に検討を行ったため，群のサンプル数が非常に少なった項目もあり，サンプル数や測定項目等についても検討が必要と考えられる。

注

2　家族内のリンクコーデ現象を主として検証した先行研究はないが, 類似した現象である双子コーデ現象について, 本研究と同様に探索的な検討を行った市村他 (2018) を参考に, 同程度のサンプル数の調査を予定し, 実施した。

利益相反

本論文に関して開示すべき利益相反事項は無い。

引用文献

布施谷節子 (1991).　乳幼児の衣生活の現状(第1報)　衣生活の因子分析.　日本家政学会誌, *42*, 545-550.

布施谷節子・松本智絵美 (2004). 被服関心・被服行動に関する女子大生と母親の相違と関わり.　和洋女子大学紀要(家政系編), *44*, 27-39.

市村美帆・新井洋輔・今野裕之(2018). 双子コーデ現象の心理学的検討.　目白大学心理学研究, *14*, 57-68.

市村美帆・新井洋輔 (2020). 双子コーデに関する社会心理学的検討－双子コーデをする理由の構造と経験有無による違い－.　和洋女子大学紀要, *61*,165-174.

泉加代子・渡辺澄子 (1994). 服装によって生起する多面的感情状態(第２報)提示衣服の着装を想定して生起した多面的感情状態の構造.　繊維機会学会誌, *47*,54-61.

増田智恵・淺井彩加 (2016). 母と娘の家族関係から見るファッション観の形成分類.　三重大学教育学部研究紀要, *67*, 125-139.

宇野保子・近藤信子・渡辺澄子・川本栄子(1994). 被服の着装による感情変化測定尺度の作成－学外サークル一活動の場合－.　中国短期大学紀要, *25*,13-19.

本研究では, 家族内, 親子間や兄弟(姉妹)間で, おそろいのファッションを楽しんだり, おそろいの洋服を着るという「家族内のリンクコーデ」の現象について，心理学的視点から，探索的に検討した。研究１では，乳幼児を育てる母親(N=4)を対象に面接調査を実施した。研究２では女子大学生(N=89)を対象に, これまでの「家族内のリンクコーデ」の経験と,「家族内のリンクコーデ」を見た経験について質問紙調査を行った。結果を踏まえて，家族内，親子間や兄弟(姉妹)間で，おそろいのファッションを楽しんだり，おそろいの洋服を着るという「家族内のリンクコーデ」の現象について，その現象の楽しみ方と，周囲に与える影響から考察した。

キーワード：リンクコーデ，被服行動, 家族

― 2022. 10. 29 受稿，2023. 3. 7 受理 ―